

平成 26 年度 第 1 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

藤原 良一 栗島 聡 岡田 清久

Activity Report of SPM Research Committee

Ryoichi Fujihara Satoshi Kurishima Kiyohisa Okada

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 26 年 2 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用して検討しています。今年度は要件をプロジェクト成果物に整理するための方法を検討しています。研究会は月 1 回の頻度で開催しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・12 月 12 日:

プロジェクト早期段階での決断がその後のプロジェクトにどのような影響を与えるかについての事例アンケートから、過去のプロジェクトのリスク対応の整理方法を検討しました。

・1 月 17 日:

リスク対応の整理方法を春季研究大会のための論文として整理した内容を確認し、議論を深めました。

<今後の予定>

・2 月 20 日: 研究会開催予定
(春季大会発表内容の確認)

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

1 ヶ月に 1 回のペースで研究会を開催しています。2015 年度春季研究発表大会に向けてプロジェクトに潜在するリスクの蓄積・評価に関わる研究をテーマに会員全員で取り組みます。興味や関心のある方の入会を募集しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・1 月 29 日: 研究会開催

「プロジェクトに潜在するリスクの蓄積・評価に関わる研究」を年間テーマに会員全員で事例を挙

げて調査・研究します。

<今後の予定>

2 月 26 日 (水) 筑波大学大学院東京キャンパスで例会を開催します。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

・1 月 10 日: 研究会開催

25 年度の今までの事例研究 (柏市, 豊田市, 宮古市) の取りまとめと今後の研究会活動計画について、意見交換を行いました。

[場所: 豊洲センタービル 21 階 F 会議室]

内容:

- ① 参画している ICT 街づくり (総務省) に関して次年度は更に、複数件 (都市) を追加する予定。
(河合主査から)
- ② ICT 街づくりにおける PM 学会の役割について
・街づくりのやり方が、其々区々であり、一方同じ課題も上がっている様なので、ステークホルダーやスコープ等の概念をきちんと意識し、実証実施時には PM を定義した方が良い。
・街づくりに PM の立場で貢献することにより、PM 学会の価値を上げていきたい。
- ③ 研究会のゴール
・「街づくり PM のガイドライン」作りを行う
・目次案は ASPIC で作成済みのものがあるので、

当研究会では、その「肉付け」を行っていくイメージではどうだろうか。

- SPM研究会の活動を、特定地域の街づくりのプロジェクトに組込むよう働きかけをする。
- 春季大会研究トラックでは、まず活動計画等を発表する。

<参考>

ICTを活用した街づくりには、クラウドのサービスを利用することが有効であることから、ASP、SaaS、クラウド等の普及展開を進めている ASPIC と連携しつつ ICT スマートタウンの普及展開を進めることが重要である。

分野	分野別の策定状況				
	分野共通	地方公共団体	医療・介護	教育	社会資本
ICT活用推進	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況
ICT活用推進	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況
ICT活用推進	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況	ICT活用推進に関するガイドラインの策定状況

図 2 ASPICによるガイドライン・指針の策定状況¹⁰

「総務省 ICT街づくり推進会議報告書」より

<今後の予定>

- 3月14日：研究会開催予定
- 特定地域の街づくりプロジェクトに組込む活動の中間報告、及び「街づくりPMのガイドライン」作成計画について

【問い合わせ先】 yoshidakn@nttdatacs.co.jp (吉田)

(4) PM人材育成研究会

(主査：池田 修一 富士ゼロックス)

第5回連載記事「多様なステークホルダーマネジメント」についての議論および確認を行いました。組織内でのステークホルダーのついでの話を行い、特 QCD が明確な場合のプロジェクトと CFT (クロスファンクショナル) プロジェクトを比較して議論されました。

また、通年のテーマとなっている「上位層向けのPM人材育成」については、プロジェクトと上位層をつなぐ役割である“目利き(上位層の補佐役として)”のコンピテンシーについての議論をしました。この目利きは、

- プロジェクトマネージャー(リーダー)と本音で話しができる
- 機能マネージャーと本音の話しができる
- 経営者と話しができる

- 全体最適が描ける等ができることであり、そのためには
 - ① 組織を理解している
 - ② プロジェクト状況・進捗を正確に確認できる
 - ③ 相談に対応できる
 - ④ 内容を理解でき、論理的に考え、話せる
- のコンピテンシーが必要であるということを理解しました。

また、人間としての基本的な行動である

- 有言実行
- 裏切らない
- 正直
- ぶれない

といったが前提であり、これを備えるにはどのような人材育成をしていけば良いかという議論を継続して行っていきます。

<今後の予定>

- 1月度 「上位層向けのPM人材育成」についての議論 第3回目
- 2月度 第6回連載記事「PMのリーダーシップの新たな視点」についての議論・確認
- 3月度 「上位層向けのPM人材育成」についての議論 第4回目

<成果物>

- PM人材育成研究会 連載第2部
- 第2部プロローグ(西沢)
- PMに求められる新コンピテンシー(池田)
- アジャイルプロジェクトマネジメントって何?(伊藤)

【問い合わせ先】 pm-com@yahoogroups.jp

(5) パーソナルPM研究会

(主査：富永 章 PMラボラトリー)

パーソナルPMは個人向けのPMです。モダンPMの知恵を活用することはもちろんですが、そこには組織のPMでは十分扱われない分野もあります。目的・目標設定は人生に関わる大事なことで、すし、内発的動機づけ、自信、Self-Efficacy、社会や周囲への貢献、セルフマネジメントのための習慣作りやプロフェッショナル・コンピテンシー、リーダーシップなども、欠かすことのできない追究分野です。

これらを6カテゴリー24分野として2010年までにまとめましたが、現在は内容の充実とさらなる有益な応用を追究しています。アイデア、事例、調査活動を含め、月例会合では自由闊達な討議が行われています。ゴールはパーソナルPMをモダンPMの1領域にすることです。それに沿い、ロ

ードマップを毎年更新しつつ、メンバー各自が自分のテーマを研究しています。本年2月にはテーマをもちより、合宿での検討会を行います。

2011年の一般向け書籍出版以来、社会での関心も徐々に増していることがネットで実感できます。ごく最近では海外でも関連テーマが少しずつ検討されるようになってきました。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・12月16日：第60回会合（於 筑波大学東京）
本年の活動まとめ、合宿計画、成果発表のフォーラム予定検討、自由発表他、自由発表3件
- ・1月17日：第61回会合（於 筑波大学東京）
合宿準備、春季大会計画、フォーラム予定検討、自由発表6件

<今後の予定>

- ・2月15-16日：第62回会合（長野県千曲市にて合宿）各自の追究テーマによるディスカッション、春季大会準備

(6) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・12月18日：第50回定例会合開催
50回目の節目の会合ということで、これまでの研究会の歩みを振り返ると共に、今後の活動についてメンバーで話し合いました。その結果、研究会史を作成すること、及びメンタルヘルスに関する具体的事例をまとめて書籍として出版する計画が提示され、全員で合意することができました。書籍の出版については2014年内に出版することを目標に、大まかな計画を立案しました。
- ・1月15日：第51回定例会合開催
PM学会らしく書籍の出版をプロジェクトと捉え、その「プロジェクト憲章」をメンバー全員で検討しました。特に書籍の特徴（≡プロジェクトを成功させるための工夫）であるケーススタディの内容について活発な議論を行いました。さらにプロジェクトメンバやプロジェクトマネージャ向けの「心の健康維持、改善」についての提案など、現場目線で読者に参考となる情報を発信することを確認いたしました。

また春季研究発表大会で発表する大阪ワークショップの成果内容についてメンバーで議論を行いました。ワールドカフェにより暗黙知を抽出しパレート分析により優先度の高いメンタルヘルス不調予防知識を特定したこと、またその結果判明した、プロジェクトチームのコミュニケーション向上とプロジェクトチームのチームワーク強化が重要な予防項目であることを発表する内容を確認いたしました。

<今後の予定>

- ・2月19日：第52回定例会合開催予定
- ・3月19日：第53回定例会合開催予定

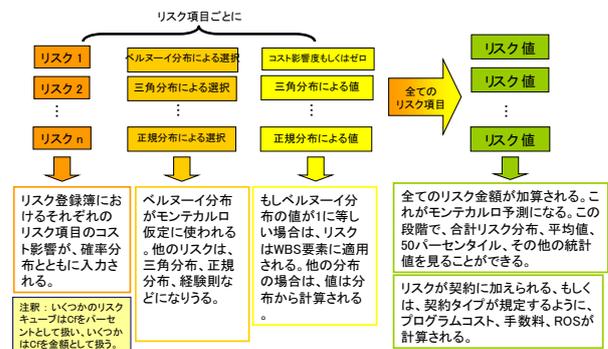
【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。日本コスト評価学会（JSCEA）よりコスト評価に関する知識体系であるCEBoK（Cost Estimating Body of Knowledge）の閲覧許可を得て、プロジェクトマネジメントへの活用を研究中です。2014年春季研究発表大会ではコストとスケジュールのリスク分析をテーマとした発表を行うべく準備中です。

(3) モンテカルロ・モデルの準備：リスク登録簿モデルによる合計リスクの決定 - 混合リスクタイプ



CEBoK Module-9 より引用

<今後の予定>

「コスト・スケジュールのリスク分析」の学習によって得た知識を元に、プロジェクトマネジメントへの応用という観点で研究を進めます。研究の成果は、研究発表大会への参加、解説論文への投稿を行う予定です。

会合は1回/月を目安に会合を行いますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。各回の会合で、前提知識は必要ありませんので、途中参加の方も歓迎します。研究会メンバーは Excel 統

計および CEBok 研究などの活動で作成したコンテンツを社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

(8) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

「研究開発 (R&D) プロジェクト」で役に立つ PM の知識体系構築をゴールに据え、産官学 22 名のメンバーが活動中です。

本研究会の頭についている「ものづくり」は、「サービス」や「ことづくり」を包含する「広義のものづくり」です。では、最近、国内の至る所で建設が進められている「メガソーラー・プロジェクト」は、私たちが研究の対象とする「ものづくり R&D プロジェクト」に含まれるのでしょうか？ 答は、NO、です。メガソーラーそのものは、その土地固有の独自性と限られた施工期間という点からみて分かるように、本来、PM が大活躍する分野です。しかし、その大半は既に確立された技術の組み合わせで済み、既に「R=Research (研究)」を必要としない段階に入っているといえるでしょう。それに対し、我々の研究では「R」の要素を含む「R&D プロジェクト」を対象としているので、先ほどの問いに対する答となったわけです。私たちは、この「R」こそ、イノベーションの源泉と考えています。

一方、現在、様々なコンセプトに基づくスマートグリッドやスマートコミュニティの R&D プロジェクトが進行中です。これらは、多様な「R」の要素を含みますので、我々の研究対象です。昨年 12 月に日本アイ・ビー・エム社で、「ICT を活用したスマートシティ・プロジェクト」をリードしておられる岡村久和氏をお招きし、特別講演会を開催しました。スマートシティは、従来の B2B ビジネスや、B2C ビジネスとも異なる「B2S (S: Social) ビジネス」です。その社会ニーズの実現には、企業側のプロジェクトだけでなく、社会に位置する市民や企業を巻き込んだ共創のプロジェクトが必要かつ重要、とのご指摘でした。講演の内容は、交通、物流、住宅、村、農林、エネルギー、防災、危機管理、等々、広い範囲にわたり、日米の実例や苦労話も交えながら、大変興味深くお聞かせ頂きました。日本のものづくり産業にとって今後、益々重要となるインフラビジネスの R&D プロジェクトのあり方や進め方を考えるうえで、示唆に富んだ貴重な講演でした。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

- ・12月19日：第10回定例会、特別講演会
(於 千葉工大津田沼)

- ・1月14日：シンポジウム準備委員会
- ・1月28日：第11回定例会

<今後の予定>

- ・2月14日：第1回シンポジウム参加
(主催：千葉工大、於 千葉工大津田沼)
- ・4月24日：第12回定例会

【問い合わせ先】rd-pm@googlegroups.com

(9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査：本間 利久 北海道大学)

2012年10月に発足した研究会です。この間、11回の研究会と「ワークショップ 2013 in ソウル」を実施しました。これまでの研究会の活動内容は学会誌平成 24 年 12 号、平成 25 年 2 月号～10 月号の研究会報告に掲載されています。

研究会名称のフロネシスは、実践的知恵 (practical wisdom) と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト (PMBOK®ガイド) を取り巻いている世界 (①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制) を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践的知恵を探求し、その研究成果を外部に発信していくことを研究会の目的としています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

12月19日(木)第12回研究会を(株)アスカプランニングで開催し、次年度開始予定の連載記事の全体タイトルについて、研究会の活動趣旨および連載記事の執筆者の意見を参考にして、自由討論の結果「社会・文化的視点から PM 実践知を身につける」としました。また、研究委員会における出版予算とコピーライトの審議状況の説明をうけて、コピーライトの進捗状況を研究委員会に問い合わせることにしました。2014年春季研究発表大会の研究会トラックでは、WS2013 in Seoul の内容を参加型意見交換会の成果を含めて発表することにしました。さらに次年度の研究会活動として、海外 WS 開催、講演会の企画および東京以外での研究会開催と研究会日程について意見交換しました。最後に、学会誌 Vol.15, No.5 および @pm.Letters 82 に掲載された WS2013 in Seoul の報告記事の紹

介と PMI 日本支部関西ブランチの創生研究会の設立経緯と活動紹介がありました。

1月23日(木)第13回研究会を(株)アスカプランニングで開催し、研究委員会から照会がありましたWS等での講演に関する著作権覚書について検討の結果、了承することとしました。また学会編集委員会からの要望により、当初予定の連載記事をトピックス記事とし、第1回連載記事を本間主査と永谷副主査が担当することとしました。特に文化情報学的アプローチによるPMBOK®ガイドの知識エリアの記述量の傾向分析を通して、研究会の役割と活動目的・内容を紹介することにしました。最後に、塩田委員から第2回連載記事内容「チェンジマネジメントとしてのPMO 確立の考察」についての説明がありました。その主な内容は、プロジェクトのグローバル化にともなう常識の違い・感情的対立の4つの要因分析例から、執筆者の体験を踏まえプロジェクトを成功に導く提言として、ガバナンスとオペレーション標準の使い分け・コミュニケーション(対話と相互信頼)およびひな型となる成果の重要性・日本の本社主導を超えたグローバル化を成功させる5つのコンピテンシーが紹介されました。

<今後の予定>

第14回研究会は、2月27日(木)(株)アスカプランニングで開催を予定しています。

2014年度の研究会活動として、第19回を7月18日(土)大阪、第20回を8月7日(木)札幌で研究会の開催を予定しております。また、金頭哲教授(ソウル大学国際学院)の講演会を7月東京および8月札幌で開催する予定です。さらに、海外でのWSをインドネシアまたはマレーシアでの開催を予定しています。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 藤原 良一
fujihara-ryoichi@mdis.co.jp

研究委員会委員 吉田 賢吾
yoshida-kengo@mdis.co.jp

研究委員会委員 赤羽根 亮子
akabane-akiko@mdis.co.jp